



長崎市と関東学院大学との包括連携協定について



長崎市と関東学院大学は、令和5年11月7日（火）、次のとおり包括連携協定を締結いたします。

長崎市と関東学院大学との交流は、関東学院大学人間共生学部で開講している「プロジェクト科目」の一環として、多文化共生やSDGsを学ぶフィールドワークのため学生たちが長崎を訪れたことを契機として始まりました。

その後、関東学院大学関内キャンパスにおいて長崎の多文化共生の特徴である和華蘭文化を理解する催しを協働して開催したことなどを踏まえ、両者が持つ資源や機能等を活用し、相互に幅広い分野で連携・協力を推進すべく、今回の包括連携協定の締結に至りました。今後も連携して以下のような事項に取り組んでいく予定です。

1 目的



両者が有する資源や機能等の効果的な活用を図りながら、**幅広い分野で相互に連携・協力**することで、地域課題の解決や人材育成に寄与すること。

2 連携事項と主な取組み

本協定に基づき次のことに取り組み、**SDGs（持続可能な開発目標）**の達成や長崎市第五次総合計画基本構想に掲げる「**めざす2030年の姿**」の実現に貢献します。

◎：新規、●：継続

	連携事項（分野）	主な取組み
(1)	教育・研究の社会連携に関すること  	●地域の魅力や課題の探求 ・実践学習プロジェクトやゼミナールにおける長崎の歴史や文化を学ぶフィールドワークなどを活用した多文化共生やSDGsなどの教育・研究に関する相互協力   ◎上記の学生の活動の報告や、教員による研究成果の対外的な公開・発表
(2)	人材育成に関すること  	◎職員や学生向け研修の相互協力(今後検討) ・講義やゼミナールへの市職員の派遣や大学側からの職員研修への派遣などの相互協力 ◎市内企業等へのインターンシップ受入れ(今後検討)

	連携事項（分野）	主な取組み
(3)	<p>まちづくり及び地域の活性化への取組みに関すること</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>  </div> </div>	<p>◎●関係人口創出のための魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパス内での食や物産などの長崎フェアを開催すること等による地域の魅力の掘り起こしや関係人口の創出 ・学生による効果的な情報発信の研究と実践 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
(4)	<p>知的資源、人材及び諸施設の活用に関すること</p> <div style="text-align: center;"> <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>  </div>	<p>◎教員による地域創生、産業振興をはじめとする市の政策に関する知見の提供</p> <p>◎行事等の開催に係る学内教育研究施設の利用等に関する協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例：大学内の施設を活用したシンポジウムの開催

SDGs（持続可能な開発目標）17の目標



【問い合わせ先】

- ・本協定に基づく具体的な取組内容に関すること
 関東学院大学 社会連携センター 江口 045-786-7744
- ・本協定の締結に至った経緯や目的等に関すること
 長崎市都市経営室 中里・比良 095-829-1111

【参考】長崎市第五次総合計画基本構想に掲げる「めざす 2030 年の姿」

「個性輝く世界都市」「希望あふれる人間都市」という都市像は、第五次総合計画の最終年度となる 2030 年においても、なお変わらずにめざす姿であり続けているでしょう。

それでは、これからの計画期間に、私たちがめざすべき到達点はどこになるのでしょうか。

私たちの価値観は多様であり、だれもが共感できる到達点を数値的に定めることは、とても困難です。

そこで、2030 年の長崎市の姿として、めざすところを少しでも具体的にイメージできるよう「めざす 2030 年の姿」を描いておくこととします。

◆みんながつながって、暮らしやすさをつくり続けています

長崎のまちは、その独特の地形が作り出した天然のコンパクトシティです。

港や山地、丘陵地に囲まれて点在する狭い平坦地に店舗やオフィスなどが集まり、その周辺に住宅地や農地などが広がって地域が形成されていて、それぞれの地域は、歴史や伝統、豊かな自然に支えられた農業や水産業など多様な資源に恵まれています。

各地域においては、コミュニティによるまちづくりが活発で、地域の特色を活かした取組みが、様々な団体の連携・協力のもとで積極的に行われ、それぞれの地域に合った暮らしやすさがつくり出されています。

また、地域の活動には様々な世代の方が参加していて、近所のつながり、地域のつながりが深まっています。

こうしたつながりが土台となって、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組みや災害時に地域で助け合う仕組み、地域全体で子育てを応援する仕組みなど、いろいろな課題に地域で対応できる仕組みが育ったり、新たに生まれたりしています。

もちろん、市内の各所で道路や公園、河川、斜面地などの計画的な整備が進んでいることで、まちの快適性や防災性の面でも暮らしやすさが向上しています。

長崎市全体としての暮らしやすさをつくる取組みも進んでいます。

中心部では、100 年に 1 度とも言える官民の投資などにより、交流、交通、産業、医療、福祉、行政など、あらゆる分野で都市機能が向上していて、**様々な目的で県内外からたくさんの方が訪れています。**

その中心部の活力は、道路交通網、公共交通、情報ネットワークなどによって、周辺の市町も含めた各地域にも波及していて、地域間の役割分担のもとで、普段の生活に必要な機能は近隣に十分確保されています。

地域や企業、大学、行政など様々な主体が、それぞれの強みを活かして役割を果たしながら、暮らしやすさをみんなで作りに続けています。



Point

- 地域コミュニティ活動の定着と、地域に寄り添う行政との連携体制を確立し、地域の特色を活かしたまちづくりを進めます。
- 地域におけるあらゆる主体のつながりを深め、各々が強みを活かして協働しながら、人口減少、少子化・高齢化社会における様々な課題に対応できる仕組みづくりを進めます。
- 「ネットワーク型コンパクトシティ長崎」を形にし、安全安心で快適な暮らしづくりを進めます。
- 周辺市町との広域連携の取組みを進めます。

◆産業がもたらす活力と技術の進歩を取り入れ、生活の質が高まっています

長崎のまちは、江戸幕府による鎖国の中にあっても世界に開かれ、全国から夢や希望を持った人材が集まる遊学の地でした。そのため長崎には、様々な形で交流を広げ、新しいモノやコト、訪れる人を受け入れる素地が受け継がれています。

産業の分野では、これまでも長崎を支えてきた産業が、社会経済情勢や価値観の変化を的確に捉えて進化を続けています。

また、地場企業や市内に集積が進んでいる情報系企業、大学、金融機関など様々な主体が協力して、地域課題の解決などに積極的に挑戦していく中で、新たな産業と雇用が生み出されています。

そして、このような先進的な動きは、若い世代を中心に、学びたい人や起業したい人などを長崎に引き寄せ、世界の舞台で活躍する人材も輩出しています。

若い世代の間では、それぞれのライフスタイルに応じて住まいの選択肢が多いことや、余暇を楽しんだりチャレンジしたりできる場所や機会が充実していることなど、自分たちの望みが叶う、暮らしやすいまちという評価が高まり、その評価がまた若い世代を呼び込むという好循環で人口流出に歯止めがかかっています。

まちには、子どもたちの元気な声があふれています。

未来を担う子どもたちを「まち全体で育てる」という意識が根付いていて、地域や企業なども一緒になった取組みの成果として、安心して子どもを生み育てられる仕組みや制度が充実しています。

また、国際性を育むプログラムなど特色ある教育が展開されていたり、一流の芸術文化、学術、スポーツなどに触れられる機会が増えたりしていることで、一人ひとりが夢や希望を持って成長しています。

暮らしの部分では、進歩したテクノロジーが広く普及し、情報、交通、医療・介護、防災、産業、流通など、様々な分野で大きな変化がもたらされています。

これまで不足していた部分や不便であったことが解消されるに止まらず、私たちの想像を超えて、より快適で便利な暮らしが実現しています。

仕事や家事などの生産性や効率性も大きく向上していて、そこから生まれた経済的・時間的な豊かさが、人ではできない仕事の質の向上や、更なる地域課題の解決、芸術文化、スポーツ、レジャーを楽しむといった心の豊かさにつながる活動の充実などにつながっています。

市民一人ひとりが、夢や生きがいを持って心身ともに健康に暮らす、質の高い生活を送っています。



Point

- 既存産業の振興に加え、新たな産業を生み出す取組みを進めます。
- 若い世代の多様な希望にかなうよう、仕事の選択肢を増やすとともに、住環境の整備や楽しみの創出などに取り組み、若い世代に選ばれるまちづくりを進めます。
- 子育て支援や教育環境を、より一層充実させる取組みを進めます。
- IoT、AI、ロボットなどの新技術を積極的に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会(Society5.0)の実現に向けた取組みを進めます。
- 芸術文化・スポーツなどを振興し、子どもから高齢者まで、健康で心豊かに生活できるまちづくりを進めます。

◆交流の歴史に培われた多様な魅力で人を惹きつけています

長崎のまちは、開港以来 450 年の間、国内外から多くの人を訪れ交流することで、新たな価値を創造しながら栄えてきました。

交流の歴史に培われた多くの個性は、時間をかけても他のまちにはつくることができない、唯一無二のものです。

これらの個性を大切に守り、磨き上げながら、美しさと快適さを兼ね備えた景観整備などにも力を入れ、さらには、その**独特で魅力的な都市個性を最も効果的に伝えるための情報発信**によって、観光はもちろん、MICEやスポーツなどを通じて、国内外から多くの人を訪れています。

まち全体で訪問客を歓迎する長崎らしいおもてなしが充実していることや、快適に滞在できる環境が整っていることで、「国際的な交流のまち」として世界に広く知られていて、これまでは訪れることがなかった地域まで足を運んで長期間の滞在を楽しんだり、繰り返し訪れたりする人も増えています。

こうした交流は、新たな学びや楽しみの機会とともに、多くのビジネスチャンスをもたらしています。

まちには、市民も訪問客もいつでも楽しめる長崎ならではの食や体験があふれていたり、**交流の中で生まれた新たなサービス**が提供されていたり、様々な形で消費が喚起されていて、経済の好循環が市民生活を豊かにしています。

Point

- 歴史、文化、景観、自然などの地域資源を守り、育て、創造し、都市の魅力を高める取組みを進めます。
- 訪問客をまち全体で歓迎し、長崎らしくもてなすことができる、世界に通用する交流のまちづくりを進めます。



◆平和な世界、持続可能な世界の実現に貢献しています

「核兵器廃絶」と「世界恒久平和」の実現に力を尽くし続けることは、被爆地長崎の使命です。被爆者のいない時代が現実となりつつある中でも、世界中の都市や市民社会と連帯し、歩みを止めることはありません。

被爆の実相の継承や核兵器廃絶に向けた活動は、行政だけでなく、多くの団体が特色や強みを活かして、様々な形で活発に展開されていて、被爆者の思いは、確実に、力強く未来につながられています。そして、「平和の文化」は日常の中にも根付いていて、一人ひとりが平和について考え、行動しています。

日々の生活の中には、思いやりとやさしさがあふれています。

「国際的な交流のまち」として、人種、民族、国籍、性別、年齢、障害の有無、思想、宗教、性自認や性的指向など、多様性が尊重されています。

また、貧困や飢餓、環境破壊など、世界中が抱える様々な問題に対し、企業や大学、行政、金融機関など様々な主体が連携して「誰一人取り残さない世界」をめざした積極的な取組みが行われています。

特に、医学や環境などのいくつかの分野では、長崎市における先進的な取組みに対し、世界からの期待が高まっています。

このように、世界の人々と連携して平和な世界、持続可能な世界の実現に貢献するまちを、市民のだれもが誇りに思っています。

Point

- 被爆者のいない時代の到来に備え、被爆の実相の継承や核兵器廃絶に向けた活動を進めるとともに、「平和の文化」を市民社会に根付かせていきます。
- SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取組みを通じて、地球と世界に貢献できるまちづくりを進めます。

